



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

かい うん さい
4月20日 開 運 祭

新年度になり職場も学校も新たな出発の月となりました
 大きな希望を持っている人 ちょっぴり不安を感じている人
 妙見様は人生という道を安心して進めるよう見守って下さいます

【4月の主な行事】

- ★写経会 14日(日) 11時
- ★清掃の日 15日(月) 11時
- ★月例祈願法要 15日(月) 13時
妙見様に願いを書いたかぶと矢を献納します
- ☆開運祭 20日(土) 9時～16時
この日限定の「勝利開運之守」を授与します
- ★鷓鴣様月例祭 22日(月) 15時

【5月の行事予定】

- ★写経会 12日(日) 11時
- ☆妙見大菩薩年大祭 15日(水) 11時
修法加持特別祈禱を厳修 事前受付中です
- ★月例祈願法要 15日(水) 13時
- ★鷓鴣様月例祭 22日(水) 15時
- 5月の清掃の日は休止します
- 星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

◎送迎バス 奉賛会会員並びにご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意
 利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡をお願いします 但しご希望に添えないこともあります

吉日 (きちじつ)

新實信導

何か物事をはじめめるのに物事がうまくいきますようにと私たちは少しでも縁起の良い日を選んでしまおう。大安吉日、思い立ったが吉日、よく耳にする言葉であるが、この縁起のよい日が吉日と呼ばれている。そもそも吉日とはどういう日なのか、「きちにち」「きつにち」とも読むが、縁起がよく、何かをしたり始めたりするのに最適な日と言われている。また、吉日には複数の種類があり、意味だけでなく年間で訪れる日数なども異なる。

・大安(たいあん)。カレンダーでよく見かけるが、大安を含む六曜の起源は古代中国の占いだそう。これらは日付の良し悪しを表すもので、縁起が良いとされている日を選び祝い事を行って親しまれてきた。大

いに安しの略。

・一粒万倍日(いちりゅうまんばいび)。宝くじ売り場でもよく見かけるが、一粒まいた糶(もみ)が立派に成長して万倍の稲穂になるという日。しかし良いことだけでなく、悪いことも万倍になるという恐ろしい日でもある。注意が必要。

・天赦日(てんしゃにち)。年に五回、もしくは六回あり、天の神様が罪を許してくれる日。何事をするのもよい日だという。

これよりも最上の日がある。日蓮大聖人は、ご信者である四条金吾殿にあてたお手紙に

「八日というのはお釈迦さまの御降誕の聖日である。その日には三十二の不思議な現象があったと伝えられている。①すべての草木に花が咲き実を結んだ。②大地からさまざまなお宝が湧き出た。③雨も降らないのに田畑に自然に水が涌いた。

④夜が昼間のように明るくなる。⑤三千世界のどこにも悲嘆の声を聞かなかった。このように、いずれもめでたい瑞相ばかりであった。それ以来、今日に至るまですべて吉事は八日を選ぶことになった」と。

今月八日はお釈迦さまのご誕生日。この吉日にお寺にお参りして手を合わせてはいかがでしょう。是非お釈迦さまの功徳を頂戴してもらいたいものです。

開運祭

新年度の始まる4月。新しい環境で新しい生活が始まります。今までなかった事態に当惑することも少なくないでしょう。どうすればいいのか、困難を切り拓き、新たなステージへ進もうとする人々に力を与え、運命を開いて下さるのが妙見大菩薩です。4月20日は「勝利開運之御守り」が授与される年に一度の日です。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

汝等が師は

為めて

是れ誰ぞ

誰の

弟子ぞ

『妙莊嚴王本事品第二十七』

あなたの師匠は 誰ですか
私の師匠は お釈迦さま

そのまた師匠は 宇宙です
静かに座つて瞑想し
宇宙の真理を体現し
教えを説かれた

お釈迦さま
宇宙の弟子になりましょう
あなたも一緒に
どうですか

知識まめ仏教

根性 (こんじょう)

氣立て・こころねのこと。ド根性などと、困難にもくじけない強い性質、何事にも負けずに努力を続ける気力といった意味にも使われる。

もとは仏教語で、仏の教えを受け容れ、その教化を被ることのできる素質。またその人が仏の教えを聞いて修行しうる能力、あるいは本性をいう。また「機根」ともいう。人にはそれぞれ個性があり同じ人はいないように、機根にもそれぞれ差異がある。仏・菩薩は私たち衆生の一人ひとりの機根に応じて法を説き、悟りへと導いて下さる。これを対機説法という。

学校教育の場などでは、生徒全員に一律に授業し、できなければやる気のない者「根性なし」とされる。しかし、教育とは本来一人ひとりの根性Ⅱ機根に応じてなされるべきものではないだろうか。